

小泉潟公園の鳥類相

船木 信一*

Avifauna of Koizumi Park, Kanaashi, Akita City, Akita Prefecture

Shin-ichi Funaki

1. はじめに

秋田市金足にある秋田県立小泉潟公園は、貴重な植物群落を持つことで1987年（昭和62年）に県から天然記念物指定を受けた女潟（低層湿原）と、広い開放水面を持つ男潟の周囲に整備された公園で、県民の憩いの場となっている。この公園の鳥類調査は佐藤（1986）が報告した全域に渡る調査と船木（2002）が女潟に限って行った調査がある。佐藤の調査では、小泉潟公園を一括りとして報告しているが、今回は小泉潟公園全域を女潟、男潟、女潟周辺、男潟周辺の4つの環境に分けて6年間に渡って調査したものであり、およそその鳥類相が把握できたものと考えられる。

2. 調査地の概要

小泉潟公園は秋田県秋田市の中心部から約15km北に位置し、低層湿原である女潟（約29ha）と広い開放水面を持つ男潟（約35.6ha）およびその周辺地域をあわせて、約170haの面積を持つ。

女潟は湿原中央の開放水域を囲むように泥炭部が浮島状に広がり、この上にヨシが発達して大群落を形成している。湿原を取り囲む部分にはヤナギ低木やハンノキが群落を形成している。

男潟はほとんどが開放水面で占められ、ヒシやハスなどの浮葉食物が点在しているほか、一部にヨシ群落が認められる。周囲にはヤナギ亜高木が認められる。

女潟周辺は公園として整備されており、様々な植物が植栽されている。レクリエーションゾーンにはテニスコートやアスレチックコース、広場などあわせて43.5haが供されている。鳥類が多く見られるのは、散策路が整備されているコナラの二次林で、ほかにスギの二次林等も見られる。

男潟周辺は女潟の周囲と異なり、駐車場のそば

に散策路が整備されている程度であり、コナラやアカマツ、クリ、ヌルデ、スギ、ハリエンジュ、シンジュなどが見られる。また、人家もすぐそばまで迫っている。

3. 調査方法

調査はいずれも一定のルートを設定したラインセンサス法と定点観察法を併用し、各環境に出現した鳥種を記録した。ラインセンサス法には主に8倍の双眼鏡、定点観察法には20倍のフィールドスコープを使用した。記録には双眼鏡等で目視したものでなく、音声で識別可能であった種も加えてある。また、単に上空を通過しただけのものは除外した。

4. 調査結果

(1) 女潟

表1に示した41種を確認した。繁殖しているものはカイツブリやバンなど6種で、うち4種が水鳥であるが、個体数で圧倒的に優占しているのはオオヨシキリであり、夏の女潟はその囀りで満たされる。オオヨシキリは近年のヨシの進出に伴い、その飛来数は増加の一途をたどっている。逆に開放水面が減少することにより、これを利用するカモ類を中心とした水鳥の利用が減少している。特に広々とした水面を好む傾向にあるハクチョウや特定の水鳥類はすべて男潟を利用している。水面が結氷する冬期は女潟を利用する種はほとんどない。

(2) 女潟周辺

表2に示した52種を確認した。うち繁殖が確認できたものは18種であるが、さらに増える可能性もある。ヒタキ科のオオルリは河川の中流域近辺の林で繁殖することが多いが、公園内の人工沼近

* 秋田県立博物館

表1 女潟で観察される鳥類

no	科名	種名	観察される時期												繁殖	採餌	備考
			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月			
1	カイツブリ	カイツブリ				○	○	○							○	○	
2	カモ	マガモ	○		○	○						○	○	○	○		○
3	カモ	カルガモ	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
4	カモ	コガモ	○		○	○	○					○	○	○	○		○
5	カモ	ヒドリガモ	○			○	○						○	○			○
6	カモ	オナガガモ	○		○	○							○	○			○
7	カモ	ホシハジロ	○			○						○	○	○	○		○
8	カモ	キンクロハジロ				○											○
9	カモ	ハシビロガモ				○	○										
10	サギ	ゴイサギ				○	○	○		○							○
11	サギ	ダイサギ					○			○	○	○		○			○
12	サギ	コサギ	○							○	○		○	○			○
13	サギ	アオサギ	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○			○
14	タカ	トビ			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○
15	タカ	チュウヒ											○				○
16	タカ	ノスリ		○		○						○	○				○
17	タカ	ミサゴ			○	○											○
18	タカ	ハイタカ											○				○
19	ハヤブサ	ハヤブサ								○	○		○	○			○
20	カワセミ	カワセミ									○						○
21	クイナ	バン				○	○	○							○	○	
22	クイナ	オオバン				○	○	○							○	○	
23	ハト	キジバト				○	○										○
24	カッコウ	カッコウ					○	○	○						○	○	
25	ツバメ	ツバメ				○	○	○	○	○	○	○					○
26	セキレイ	ハクセキレイ				○	○	○	○	○	○	○	○				○
27	モズ	モズ					○				○	○	○				○
28	ヒタキ	ルリビタキ					○				○	○					○
29	ヒタキ	ツグミ	○	○	○	○							○	○			○
30	ヒタキ	オオヨシキリ					○	○	○						○	○	夏期優占
31	ヒタキ	ウグイス				○	○				○		○				○
32	エナガ	エナガ				○	○	○			○	○	○				○ 巢材調達
33	シジュウカラ	ヤマガラ				○	○		○	○	○						○ 巢材調達
34	シジュウカラ	シジュウカラ				○	○				○	○	○				○ 巢材調達
35	ホオジロ	ホオジロ				○	○	○	○	○	○	○	○				○
36	ホオジロ	カシラダカ										○					○
37	アトリ	カワラヒワ				○	○	○	○	○	○	○	○				○
38	ハタオリドリ	スズメ				○	○	○	○	○	○	○	○				○
39	ムクドリ	ムクドリ					○					○	○				○
40	カラス	ハシボソガラス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○
41	カラス	ハシブトガラス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○
		計	11	5	10	29	27	18	13	14	23	21	25	14	6	40	

表2 女湯周辺で観察される鳥類

no	科名	種名	観察される時期												繁殖	採餌	備考
			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月			
1	タカ	トビ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	
2	タカ	チュウヒ											○			○	
3	タカ	ノスリ	○	○		○						○	○	○		○	
4	タカ	ハイタカ										○				○	
5	ハヤブサ	ハヤブサ								○	○			○		○	
6	キジ	キジ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
7	ハト	キジバト				○	○	○	○	○	○	○			○	○	
8	カッコウ	カッコウ						○	○						○	○	
9	アマツバメ	ハリオアマツバメ														○	
10	ツバメ	ツバメ				○	○	○	○	○	○	○			○	○	
11	キツキ	アオゲラ	○	○								○	○	○		○	
12	キツキ	アカゲラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
13	キツキ	コゲラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
14	セキレイ	ハクセキレイ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
15	セキレイ	キセキレイ			○												さえずり
16	ヒヨドリ	ヒヨドリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
17	モズ	モズ		○	○		○	○			○	○	○			○	
18	ヒタキ	ルリビタキ					○				○	○				○	
19	ヒタキ	キビタキ				○											渡り途中衝突死
20	ヒタキ	サンコウチョウ				○											さえずり
21	ヒタキ	クロツグミ				○		○									さえずり
22	ヒタキ	トラツグミ				○					○						渡り途中衝突死
23	ヒタキ	ツグミ	○	○	○	○	○						○	○		○	5月さえずり
24	ヒタキ	マミジロ									○						渡り途中衝突死
25	ヒタキ	ウグイス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
26	ヒタキ	クイタダキ	○											○		○	
27	ヒタキ	ヤブサメ						○									さえずり
28	ヒタキ	オオヨシキリ					○	○	○							○	
29	ヒタキ	メボムシクイ									○	○					渡り途中衝突死
30	ヒタキ	コメボソムシクイ					○	○								○	さえずり
31	ヒタキ	エゾムシクイ					○										渡り途中衝突死
32	ヒタキ	センダイムシクイ					○										渡り途中衝突死
33	ヒタキ	オオルリ				○	○	○								○	○
34	エナガ	エナガ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
35	シジュウカラ	ヤマガラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
36	シジュウカラ	シジュウカラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
37	シジュウカラ	ヒガラ											○			○	
38	メジロ	メジロ					○	○	○	○						○	
39	ホオジロ	ホオジロ				○	○	○	○	○	○	○			○	○	
40	ホオジロ	カシラダカ											○			○	
41	ホオジロ	ノジコ										○					渡り途中衝突死
42	ホオジロ	アオジ				○	○									○	
43	アトリ	カワラヒワ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
44	アトリ	マヒワ	○													○	
45	アトリ	ウソ		○												○	
46	アトリ	イカル					○	○								○	
47	ハタオリドリ	スズメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
48	ムクドリ	ムクドリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
49	ムクドリ	コムクドリ								○							
50	カラス	カケス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
51	カラス	ハシボソガラス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
52	カラス	ハシブトガラス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		計	21	21	19	27	31	28	22	23	26	26	24	21	20	40	

表3 男潟で観察される鳥類

no	科名	種名	観察される時期												繁殖	採餌	備考	
			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月				
1	カイツブリ	カイツブリ				○	○	○									○	
2	カイツブリ	アカエリカイツブリ													○		○	
3	カイツブリ	カンムリカイツブリ													○		○	
4	シギ	イソシギ									○						○	
5	カモ	オオハクチョウ	○	○	○	○	○						○	○	○		○	
6	カモ	コハクチョウ	○	○	○										○		○	
7	カモ	ヒシクイ		○														
8	カモ	シマアジ															○	
9	カモ	マガモ		○	○	○						○	○	○	○		○	
10	カモ	カルガモ		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	
11	カモ	コガモ		○	○	○	○					○	○	○	○		○	
12	カモ	ヒドリガモ				○								○	○		○	
13	カモ	オナガガモ		○	○	○								○	○		○	
14	カモ	ハシビロガモ										○	○				○	
15	カモ	ホシハジロ	○		○	○								○	○		○	
16	カモ	キンクロハジロ			○	○											○	
17	カモ	ホオジロガモ															○	
18	カモ	ミコアイサ	○												○	○		
19	カモ	カワアイサ	○												○	○		
20	サギ	ゴイサギ				○	○	○		○							○	
21	サギ	ダイサギ					○			○	○						○	
22	サギ	コサギ								○	○						○	
23	サギ	アオサギ		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				○	
24	タカ	トビ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	
25	タカ	ミサゴ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	
26	タカ	ノスリ	○	○	○	○											○	
27	ハヤブサ	ハヤブサ										○					○	
28	ツバメ	ツバメ				○	○	○	○	○	○						○	
		計	8	11	12	15	10	7	5	9	11	11	18	13		0	27	

表4 男潟周辺で観察される鳥類

no	科名	種名	観察される時期												繁殖	採餌	備考	
			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月				
1	シギ	イソシギ																
2	カモ	カルガモ			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	
3	サギ	ゴイサギ				○	○	○		○							○	
4	サギ	ダイサギ					○			○	○						○	
5	サギ	コサギ								○	○						○	
6	サギ	アオサギ		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				○	
7	タカ	トビ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	
8	タカ	ミサゴ			○					○	○						○	
9	タカ	ノスリ	○	○	○	○						○	○	○			○	
10	ハヤブサ	ハヤブサ										○					○	
11	キジ	キジ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	
12	ハト	キジバト	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	
13	カッコウ	カッコウ					○	○	○								○	
14	ツバメ	ツバメ				○	○	○	○	○	○						○	
15	キツツキ	アカゲラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	
16	キツツキ	コゲラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	
17	セキレイ	ハクセキレイ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	
18	ヒヨドリ	ヒヨドリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	
19	モズ	モズ	○	○	○	○						○	○	○			○	
20	ヒタキ	ツグミ	○	○	○	○							○	○			○	
21	ヒタキ	オオヨシキリ					○										○	
22	ヒタキ	コヨシキリ					○	○	○								○	
23	エナガ	エナガ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	
24	シジュウカラ	ヤマガラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	
25	シジュウカラ	シジュウカラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	
26	ホオジロ	ホオジロ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	
27	アトリ	カワラヒワ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	
28	ハタオリドリ	スズメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	
29	ムクドリ	ムクドリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	
30	カラス	ハシボソガラス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	
31	カラス	ハシブトガラス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	
		計	19	20	22	23	24	22	21	24	23	22	21	20		7	30	

辺で繁殖しているのを確認した。女潟に隣接する博物館には渡りの途中で衝突して斃死するものが多い。この中には、マミジロヤキビタキ、メボソムシクイなど普通は都市近郊では見ることができない種類もあった。ユーラシア大陸北部で繁殖し、日本を通過するコメボソムシクイが毎年のように訪れるようになっているほか、渡りの時期には長い尾羽が特徴的なサンコウチョウや河川の上流部で繁殖するキセキレイなども確認された。

(3) 男潟

表3に示したように水鳥を中心に28種を確認した。潟の内部で繁殖している可能性のあるものはカイツブリとカルガモであるが、確認はできなかった。夏、賑やかな女潟とは対照的に男潟は静かだが、秋から春にかけての冬期は冬鳥であるハクチョウ類やカモ類で賑やかになる。特に狩猟が解禁となる11月1日以降、禁猟区である男潟は安息の場を求めるカモ類がぐんと増える。年によって差はあるが、女潟に比べて結氷するまで時間を要する男潟は、静かになった女潟を横目にこれら冬鳥で騒々しくなる。近隣の住民によってハクチョウの餌付けが行われているが、これも滞在期間を延ばしている一因と考えることができる。

(4) 男潟周辺

表4に示した31種を確認した。繁殖しているものは7種であるが、コヨシキリは女潟およびその周辺には見られず、男潟の周辺でのみ観察された。これはオオヨシキリより乾燥地を好むコヨシキリが男潟の水面からかなり離れたヨシに営巣したことによる。ただし、この営巣は残念ながら6年間の中で一度だけであり、ここ数年は繁殖していない。シジュウカラとコヨシキリを除く5種はいずれも人家及びその影響を強く受ける場所での営巣である。

5. 考察

4に示した結果はそれぞれの環境ごとに述べたものであるが、それぞれの環境は隣接する環境と密接なつながりを持っており、それを加味すると女潟と男潟の位置づけが下のように見える。即ち、女潟およびその周囲が夏鳥を中心に、そして男潟及びその周囲が冬鳥を中心に利用されてい

るという対照的な事実である。最短距離で僅か数mしか離れていない環境でありながら、利用のされ方が全く異なる地域は国内でも稀である。これが小泉潟公園全体の鳥類相の最も大きな特徴であるといえよう。また、渡りの中継地点として安全な休息場所を提供しているという意味で、公園の存在意義は大きく評価されていようと思う。

表5に今回の調査では確認できなかったが、佐藤(1986)および元博物館職員らによって小泉潟公園内で過去に確認された43種を挙げてある。表中の「金農校舎内」で記録された種類は公園に隣接する秋田県立金足農業高等学校の敷地内で確認されたものであるが、いずれも公園のすぐそばであり、公園を利用していたであろうことも考えられる。これらのうち、繁殖の可能性のあるものはほとんどなく、渡りの途中で短期間公園を利用したものが大勢を占める。これらの種は今後も確認される可能性が大であることを付記しておく。また、過去のデータと比較すると、1986以前は公園内はおろか秋田県内でもあまり見ることができなかったが、最近ではごく普通に見られるようになった種類としてダイサギやコサギなどシラサギの仲間、オオハクチョウ、コハクチョウ、ユリカモメ、ミサゴなどが挙げられる。逆に過去に普通に見られたもので最近ほとんど見られなくなったものとしてヨシゴイ、ヒクイナ、ショウドウツバメ、ミソサザイ、シロハラなどが挙げられる。

以上のように、小泉潟公園は多くの鳥類に利用されており、渡りのルートになっていることから、今後も確認される種が増えていくことが予想される。しかしながら、(特に女潟の)乾燥化や水質の富栄養化、帰化植物や外来動物の増加など、国内の水辺で進行する問題は小泉潟でも深刻な問題を引き起こしており、水生植物や魚類、昆虫類はすでに絶滅してしまったものがあるほか、多くの種が絶滅の危機に瀕している。公園内の生態系は総合的に考えると決していい方向に向かっているとは言えない状況にある。

6. 要約

(1) 秋田県立小泉潟公園を女潟、男潟、女潟周辺地域、男潟周辺地域の4つに分け、6年

表5 過去のデータで確認されている鳥類

no	科名	種名	観察される時期												場所	繁殖	備考	
			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月				
1	カイツブリ	ハジロカイツブリ												○		男潟		
2	カイツブリ	ミミカイツブリ												○		男潟		
3	サギ	ヨシゴイ					○	○	○	○	○	○	○			女潟	可能性大	
4	サギ	ササゴイ						○	○	○						男潟周辺		
5	カモ	ヨシガモ								○				○		男潟		
6	カモ	スズガモ														男潟・女潟		冬期間
7	タカ	オオワシ	○													男潟		
8	タカ	オオタカ												○		男潟周辺		
9	クイナ	ヒクイナ														男潟周辺・女潟周辺		夏鳥
10	チドリ	コチドリ						○								女潟		
11	チドリ	ケリ			○		○									男潟周辺		
12	シギ	タシギ				○										金農校舎内		翼骨折
13	カモメ	ユリカモメ												○		男潟		
14	カモメ	コアジサシ						○	○		○					男潟		
15	カッコウ	ジュウイチ						○								女潟周辺		
16	カッコウ	ツツドリ						○								金農校舎内		
17	カッコウ	ホトトギス				○	○									女潟周辺		
18	フクロウ	フクロウ						○	○				○			女潟周辺		
19	アマツバメ	アマツバメ					○									女潟周辺		
20	ヤツガシラ	ヤツガシラ				○										女潟周辺		
21	ツバメ	ショウドウツバメ				○	○			○	○					男潟・女潟		
22	ツバメ	コシアカツバメ					○									女潟		
23	ツバメ	イワツバメ				○				○						女潟・男潟周辺		
24	セキレイ	セグロセキレイ	○											○		男潟・女潟周辺		
25	セキレイ	ビンズイ					○									女潟周辺		
26	モズ	チゴモズ						○								男潟周辺		
27	モズ	アカモズ						○								女潟周辺		
28	レンジャク	キレンジャク				○										女潟周辺		
29	レンジャク	ヒレンジャク				○										女潟周辺		
30	ミソサザイ	ミソサザイ	○	○	○											男潟周辺・女潟周辺		
31	ヒタキ	コマドリ												○		金農校舎内		衝突死
32	ヒタキ	ジョウビタキ				○										女潟周辺・男潟周辺		
33	ヒタキ	ノビタキ												○		金農校舎内		
34	ヒタキ	シロハラ	○	○										○	○	金農校舎内		
35	ヒタキ	カラアカハラ														男潟周辺		衝突死
36	ヒタキ	セッカ							○	○						女潟	?	
37	ヒタキ	コサメビタキ					○									男潟周辺・女潟周辺	?	
38	シジュウカラ	コガラ	○	○										○	○	女潟周辺		
39	ホオジロ	カシラダカ												○	○	女潟周辺		
40	アトリ	アトリ			○	○										女潟周辺		
41	アトリ	ベニヒワ			○											金農校舎内		
42	アトリ	ベニマシコ				○										金農校舎内		
43	アトリ	シメ	○	○	○	○	○									女潟周辺		
		計	6	7	6	8	12	7	4	4	7	5	8	3			1	

間に渡って鳥類調査を行った。

- (2) 女潟およびその周辺地域は夏鳥を中心に渡りの中継点として利用されている。
- (3) 男潟およびその周辺地域は冬鳥を中心に渡りの中継点として利用されている。
- (4) 隣接する環境の利用のされ方が対照的であるという点において、小泉潟公園は鳥類の生息に関して特異的な環境である。

7. 文献

佐藤武視, 1986: 小泉潟公園周辺の鳥類 - 1976年以降の記録から - . 秋田県立博物館研究報

告, 11, 123-135.

高橋一郎, 1987: 秋田市小泉潟公園に渡来したヤツガシラ *Upupa epopus saturata* の観察記録から. 秋田県立博物館研究報告, 12, 89-93.
 船木信一, 2002: 秋田市金足女潟の鳥類相. 秋田県立博物館研究報告, 27, 19-22.
 秋田県教育委員会, 2005: 秋田県文化財調査報告書第403集. 秋田県指定天然記念物女潟湿原植物群落保存管理計画策定報告書.